

## 2017年3月 ビシュナプールコロニーワークキャンプ報告書



【活動日程】 2月20日～3月12日

【活動場所】 インド西ベンガル州バンクラ地方ビシュナプールハンセン病コロニー

【参加者】 計6人

中西烈（筑波大学1年）、松山もえ（筑波大学1年）、石田瑞季（筑波大学2年）  
渡部由佳（筑波大学1年）、小山倫（筑波大学1年）、村松翼（筑波大学1年）

【活動報告】

### ①ワークプロジェクト

コロニー内には村人が生活用水として利用する水道が2つあるが、どちらの水道も足場が安定しないなど利用環境が非常に悪いため、今回キャンプのワークとしてレンガやセメントを用いた丈夫なプラットフォームを建設した。また、かねてから問題視されていた住居の雨漏り問題を改善するため、ステンレス板と接着剤を用いて屋根の穴をふさぐ簡易修理を実施した。

### （水道のプラットフォーム建設）

《目的》

水道周りの利用環境を整備することで、コロニーに住むお年寄りや足に障害をもつハンセン病快復者が安全に水道を利用することができる。また、コロニーには水浴びなどで利用する大きな井戸があるが、コロニーの反対側から井戸へ向かうのには距離があるた

め、村に点在する2か所の蛇口の利用環境を整備することにより多くの村人にとって労力の削減につながる。

#### 《成果》

セメント業を生業とする村人と協力して作業を進め、非常に質の高い丈夫なプラットフォームを短期間で建設することができた。しかし、namaste!が目指すコロニー全体を巻き込んだワークではなく、技術者が専門的技術を駆使して完成まで作業を進めたため、キャンペーンの意図が村人たちに十分に伝わらなかったという点では課題が残った。

#### ～活動の様子～



(整備前の水道周り)



(レンガなどで修復作業を村人で行う)



(水道のパイプ周りをレンガで補強)



(整備後の水道)

#### (屋根の簡易修理)

##### 《目的》

屋根の簡易的な修理を広範囲の家屋を対象に実施することで、屋根の張替えほどの効果は期待されないものの、雨漏りによる被害を軽減することができる。また、今回はキャンペーンが中心となり修理を実施するのではなく村人自身が主体的に修理に臨むよう促すことで、キャンプが終了した後も継続するワークの持続的な効果を目指した。

## 《成果》

村人に私たちが意図した「村人主体の修理」の趣旨が伝わらず、またステンレスと接着剤を用いた修理自体が現状に適合しない不十分なものであったため、今回の屋根修理は失敗に終わった。しかし、今回の反省を踏まえ、より効果的で村人に受け入れられる屋根の修理の実施を目指すという今後の方針がまとまった。

## ～活動の様子～



(屋根に空いている穴)



(ステンレス板を用いて修理)



(修復方法を村人にレクチャー)



(実際に修復を行っているところ)

## ②進学応援プロジェクト

コロニーに住む学生に対して、奨学金による経済的支援を行い、大学進学を実現するという「進学応援プロジェクト」を推進している。今回のワークキャンプでは、現在支援している3人の学生と今後の支援対象候補に関する再調査を実施した。

## 《目的》

学生たちが将来なりたい職業や現在勉強している科目などの情報を収集・整理することで、「進学応援プロジェクト」の内容の精密化と規模の拡大を目指した。

## 《成果》

予定通りの調査を順当に進めることができた。現在支援している3人の学生からは将来の展望や学習状況などを、今後支援の検討を進める学生からは大学進学への熱意など聞くことができた。今後の日本でのプロジェクト運営につながる調査となった。

## ～活動の様子～



(支援対象候補の子にヒアリング)



(現在支援中の3人の学生)

## ③リサーチプロジェクト

ワークキャンプの主要プロジェクトであるワークに関する調査を実施した。前回キャンプで実施したワークがどのように活かされているかを確認する調査と、次回キャンプで実施するワークのニーズを把握する調査の2つを実施した。

## 《目的》

ワークの成果と今後のワークニーズを調査することによりワークキャンプの事業評価を行う。このリサーチプロジェクトを通じて得られる事業評価は、各キャンプを振り返るうえで非常に大切な要素となる。

## 《成果》

予定通りの調査を実施することができた。前回キャンプで実施した屋根の張替えが十分な効果を維持していることが確認でき、また雨漏り被害が深刻な家屋の屋根の修理や女性の水浴び場の建設が今後のワークニーズとして確認できた。

～活動の様子～



(村人とのミーティング)



(村人にニーズ調査を行っている)

#### ④マニプールコロニー訪問プロジェクト

当団体が活動しているもう一つのコロニーに一泊2日で訪問し、そこでの村人の生活や居住環境、教育への意識などを調査した。マニプールコロニーでのキャンプ期間中の訪問であったため、namaste!のほかのメンバーとの現地での交流が実現した。

##### 《目的》

マニプールコロニーはビシュナプールコロニーと比べて生活水準が高く、コロニーの規模も大きい。そのため、今後のビシュナプールコロニーでの活動の参考とすることができ、結果としてビシュナプールコロニーのインフラ面や教育面での発展が期待できる。

##### 《成果》

ビシュナプールコロニーとは異なるハンセン病コロニーを訪問し、「比較」が可能になった。また、教育の重要性を理解している若者と親睦を深め、今後彼らをビシュナプールコロニーに招待して教育についての話をしてもらおう機会を設けることができた。

～活動の様子～



(村長とのミーティング)



(コロニーの散策、リサーチ)



(マニプールコロニーの大学生との交流)

### ⑤エンタメプロジェクト

キャンプ最終日の夜に、日本人キャンパーとコロニーの人々が広場に集まってダンスなどの出し物を行うパーティーを実施する。キャンパーからの挨拶や村長からの言葉など、お別れを意識したプログラムも含まれる。今回日本人キャンパーはソーラン節や恋ダンスなどを披露した。

#### 《目的》

キャンプ最終日に、みんなで思い出をつくること。そして何よりも楽しむこと。また、日本人キャンパーが披露するダンスはキャンプ中毎朝起床直後に練習するものである。一日の活動の始まりにはいつもダンスがあり、それはキャンプを通しての思い出となる。

#### 《成果》

インドの文化と直に交流することができる。村人は華やかな衣装をまとい、独特のダンスを披露してくれる。また日本人キャンパーの披露するダンスに村人たちは盛り上がり、私たちにとってもとても良い思い出となった。

#### ～活動の様子～



(日本人によるダンス披露)



(コロニーの人々と一緒に踊っている)